

## 株主手帳（2021年12月号）に当社記事が掲載されました



▲ふるいち トレカパークAKIBAラジ館ビル店

「イトモン」は、ふるいちに用がない人も店の前を通るので集客力があります。それに比べると、古本市場は古本やゲームに興味がある目的買いの人の割合が高いです。ふるいちには古本市場を知らない人にもPRできま

率の高い古本などで本業の立て直しに着手した。また既存店の外観を綺麗にするなど集客にも投資を行った。

2021年2月期の連結業績は、売上高249億5300万円、営業利益9億2900万円。コロナ禍の果ごもり需要により古本、ゲーム、トレカなど各種商材の売上が伸びたことも大きな追い風となり11年ぶりの増収となった。

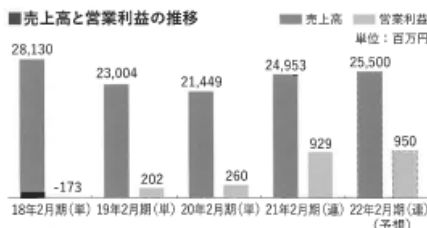
「コロナ禍にゲーム商材がマッチしました。またトレカも2020年後半から盛り返してきて、21年には絶好調になってきました。そうした状況の中で既存事業の見直しがフィットした結果、大きな

挽回を果たしたと思います」（同氏）

「ふるいち」モール出店を加速  
EC、BtoB事業も促進

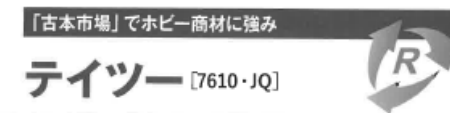
21年3月にはグループ成長戦略を発表した。現在は3つの事業領域で事業の再構築に取り組み。1つ目は、リニューアル店舗領域。モバイル商材、古着、ブランド品など商材の多様化を進めるほか、19年から出店を開始した「ふるいち」のモール出店を加速させる。古本市場が、坪数150〜400坪のロードサイド型店舗なのに対し、ふるいち30〜60坪の床面積で古本市場を小型パッケージ化したモール出店型店舗。初期投資を抑え早期回収が見込めるモデルだ。現在は13店舗まで増えている（21年8月末時点）。

ティーツー 【株式データ】			
コード 7610 市場 東証ジャスダック			
直近株価	88円 (21.10/26終値)		
年初最高値	115円 (21.1/4)		
年初最低値	64円 (21.5/13)		
時価総額	60億円		
PER	9.2倍 配当利回り 1.14%		
PBR	1.49倍 決算 2月		
2021年2月期 連結業績			
売上高	249億5300万円	前年比	1.1%
営業利益	9億2900万円	前年比	1.1%
経常利益	9億3400万円	前年比	1.1%
当期純利益	7億300万円	前年比	1.1%
※2021年2月期より連結決算に移行したため、前期比記載なし			
2022年2月期 連結業績予想		前期比	
売上高	255億円	2.2%増	
営業利益	9億5000万円	2.2%増	
経常利益	9億5000万円	1.7%増	
当期純利益	6億5000万円	7.6%減	
値動き			



の方などに長く持っていたら、株主の方への配当還元を目指したいです」（同氏）

## 古本、ゲーム、トレカ強みに110店舗展開 本業のリユース軸に事業立て直しを図る



藤原克治社長

Profile 藤原克治 1969年12月27日生、岡山県出身。1993年関西大学高学部卒業、東海銀行（現三井UFJ銀行）入行。2001年ティーツー入社。14年管理部長として取締役に就任。15年取締役経理財務部長兼チーフ・コンプライアンス・オフィサー、インテリア株式会社取締役。17年ティーツー取締役管理本部長兼経営管理部長兼チーフ・コンプライアンス・オフィサー。同年5月代表取締役社長に就任（現任）。

岡山に本社があるティーツーは「古本市場」の屋号で約110店舗を展開する。同社の2021年2月期連結業績が11年ぶりに増収となった。新型コロナの影響による集客もリユース軸に強みを生かしている。昨年6月にはリユースのネット通販に強い山徳社をグループ化した。今後は本業のリユースを軸に、ECやBtoB事業に注力し業績アップを目指す。

「古本市場」でホビー商材に強み

ティーツー [7610・JQ]

ロードサイド型で店舗増やす  
ゲーム市場と共に業績伸長

同社は、ゲーム・古本を扱う「古本市場」、トレカ・ペンギンカードを扱う「トレカパーク」などを展開する。出店エリアは、主に京阪神が6割、埼玉中心の関東が3割、創業地の岡山を含めた中国地方が1割。地元では古本市場は、ふるいちの愛称で親しまれている。

同社の特徴は、古本とゲームを両立しながら、マニアックな商材であるトレカもチェーン店として扱っている点だ。古本をメインに新品・中古ゲームなどのホビー商材を中心に買取販売を行う。利益構成はゲーム、古本、トレカの順で取り扱いが多く、中古と新品の売上比率は約半々だ。

創業は1989年。岡山市内に古本市場1号店を開店して以降、郊外ロードサイド型の店舗展開で順調に店舗数を増やした。2008年2月期

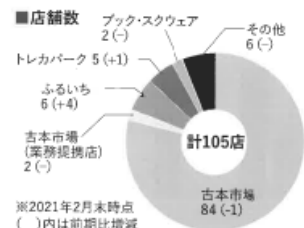
には売上高455億円、利益14億円と業績は過去最高を記録した。好調の背景には、Wiiやプレイステーションなどの家庭用ゲーム機やゲームソフトが発売され、ゲーム市場が活況だったことがある。それに伴い同社の業績も伸びたが、市場が安定期を迎えると同時にスマートフォンが発売されスマホゲームが台頭していった。

「スマートフォン登場で消費者の遊び方は大きく変化しました。当社はゲームメーカーが牽引するマーケット構成にかなり左右されています。たので売り上げも影響を受けました」（藤原克治社長）

本業の立て直しに着手  
21年2月期は11年ぶり増収

当時既存事業以外に同社が積極的に投資していたのがネットカフェ事業だ。しかし競合が増え厳しい環境になり、2011年他社に事業部門を売却。その後も新事業への投資を重ねていった。

次に、トレカ商材にフォーカスして立て直しを図った。しかし、17年トレカショックと言われる遊戯王カードのルー



くうまくいかず業績が落ち、結果として既存商材の強みも失いました。その反省を踏まえ、私が社長に就任してから古本、ゲームの既存商材の立て直しに取り組みました。それが足元の業績を復調させる鍵だと考えました」（同氏）

17年、藤原氏の社長就任と同時に、FC店のオーナーとして独立していた現在取締役営業部長兼店舗運営部長の光本泰佳氏を役員に迎え、利益